


退職者 NO.87

# こだま会報



## 高齢期を楽しみ 有意義な人生を送ろう



雪の大雄山 (栗飯原 茂さんの作品)

### 目次

- 表紙写真・栗飯原茂さん  
／コラム「散歩道」新井  
通子さん……………①
- 楽しい趣味の会……………②③  
秋の旅行／歴史教室／  
こだま俳壇／合同吟行／  
予告
- 会員紹介・大石勝彦さん  
……………④
- BOOK／映画随想……………⑤
- 奈良・大和路1泊研修旅  
行／絵手紙／こだま句会  
から……………⑥
- 県職員九条の会「平和講  
演会」／輝け高齢期かな  
がわの集い……………⑦
- 手づくり文化祭／薬膳料  
理……………⑧

### 散歩道

両親を看取り、夫も逝  
き、介護の責任はなく  
なつたと思う間もなく、  
大先輩にすすめられて、  
介護事業を行うNPO法  
人を手伝うことになった。

昭和50年代、急速に訪れる高  
齢社会を心配し  
て、有識の女性た  
ちが語り合い、  
ホームヘルプサー  
ビスをする市民活  
動組織を作った。

まだ行政の介護  
サービスが低所得  
者に限られてい  
て、そろそろ親の  
介護が始まった女  
性にとって、介護  
は深刻な問題だっ  
たのである。

ボランティアと  
しての活動は以前  
からあったが、一方的に助けら  
れるだけでなく、お互いに助け  
合うことを理念とし、感謝の気  
持ちをお金で表すことにした。

それは女性の新しい仕事づく  
りとしての側面を持つものでも  
あった。

## この頃思うこと

新井 通子

時が流れて高齢化は進行し、日  
本にも介護保険制度が導入されて  
10年になる。  
有償ボランティアから介護労働  
へと移行したその実情はどうなっ  
たのか。

NPO法人で在宅介護を支えて  
いるのは、殆ど主婦である。

登録ヘルパーという不安定  
な身分で、その平均賃金は月  
5〜6万円であり、被扶養家  
族の範囲内の働きである。

時給単価だけでみれば、一  
般市場の3割は高いのだが、  
移動時間や突然のキャンセル、  
外出してしまった認知症  
の利用者を探し廻る時間など  
は保障がない。

しかも、様ざまな人生を  
送ってきた利用者に対する極  
めて精神性の高い労働である  
にもかかわらず、社会的評価  
はまだまだ低い。

若い女性が働き続け、結婚しな  
くなれば、ますます人材の確保は  
難しくなるだろう。

加えて、介護保険だけでは生活  
全般を支援することはできず、費  
用負担も大きくなる。

女性だけに担わせるのは、もう  
限界だと思ふのだが。

# 楽しい趣味の会

趣味の会は長生きの散歩道  
一緒に歩きましょう!!

## 秋の旅行

### 芸術の秋、満喫

昨年の11月10日から11日、こだま会『秋の旅行』では、武田氏の旧跡、「種蒔く人」とワイン、名勝を楽しんだ。曇り空のもと本厚木駅前に参加者13人が集合。なごやかな雰囲気のもとマイクロバスは東名、富士五湖道路、中央高速を経て一路勝沼ワイナリーへ。

途中、色づき始めた紅葉を眺め、甲府盆地を見下ろす葡萄棚のもとに到着。早速、工場見学。

勝沼産甲州種ワインの香りに溢れるなか、試飲。コク、さっぱり、フルーティー、甘口、辛口、それぞれが楽しめる100年を越える産地づくりの



勝沼ワイナリー



武田神社



昇仙峡

秩父山系の主峰・金峰山を源とする荒川の中流にある渓谷。溪流に点在する奇岩・怪石や岩峰を眺め仙娥滝まで約1時間の散策。赤や黄色に染

紅葉と本殿を背景に記念撮影。  
◎昇仙峡

武田氏3代63年間の居城であった躰躰ヶ崎館跡。周囲は高さ3・6メートルの土塁、その外側に堀が築かれていた。本殿横の宝物館では、陣中で使用した信玄の軍扇など展示。  
天下人になれなかった信玄の無念さがにじみ出ているように思えた。

◎武田神社  
努力が詰っているように思えた。会員の顔も紅く染まった。車中では手作りツマミを肴にし、楽しく歓談。調理法の紹介もあった。

まいった木々の美しさが印象に残った。  
◎今宵の宿へ  
ホテル神の湯温泉でゆったり温泉につかり日頃の疲れを癒した。ちよつと肌を冷たい雨が降るなか、露天風呂は心地よかった。宴会の後、カラオケではデュエット曲もあり大いに盛り上がった。



浦賀

## 近世浦賀港の繁栄を尋ねて

11月2日の穏やかな日射しの下、浦賀湾をめぐる幕末の史蹟を尋ねた。浦賀には格別な印象もなかったが、港に適した地形と東京湾の入り口にあたるため、古くは享保5年(1720)に、幕府の奉行所の設置を契機として栄えた地域。当地の寺社は幕末に活躍した人達のいわれを伴って、講師の説明となった。

◎「種蒔く人」  
朝から雨、予定を一部カットして

始めの顕正寺には、荻生狙来の朱子学の弟子で陽明学の学者でもある中根東里の墓がある。また、隣の東耀稲荷は社殿のまわりや格天井に見

山梨県立ミレー美術館と文学館を訪門。秋の夕暮れ時、若い農夫が坂を下りながら左手で種の入った袋を握り、右手で力強く種をまく。右奥では夕日を浴びた2頭の牛が大地を耕す。人体による対角線構図と斜めの地平線の交差が生み出す緊張感と力動感、農民の姿や生活をさらに一層生きいきと描いているように思えた。  
(千野忠良)

また文覚上人が京都の石清水八幡宮から勧請した東叶神社は、勝海舟が咸臨丸の渡米を祈って断食をした所とされ、船玉明神をまつり小田原北条氏が水軍の本拠とした浦賀城跡と伝えられている。  
次は市の連絡船で、対岸の西叶神社に渡り詣でた。続く常福寺には咸臨丸の出航にあたって、勝海舟が祈願したと伝えられており、裏山に日米修好百年を記念して外務大臣・藤山愛一郎の筆になる「咸臨丸出船」の碑が建立されている。



新春こだま俳壇

霧ごめの冷氣するどく初日待つ

木村 武子

変わることも何もなければ年新た

島田多嘉子

初日の出昇り来し方にらみ待つ

中村 桂子

リハビリの靴新しく初春を待つ

鈴木志げ子

柿の葉の落ちたる枝に初日乗る

白井保次郎

階段で手を引かれての初参り

白石 為康

初富士や風の呼び声ぶおくんぶおん

井村 友彦

歟もたねど賢治のこころ喜寿の春

小川 水草

元旦や「朝陽霊峰」凜として

三井 光子

新しきちひろの暦平和色

松尾佐知子

なつかしの歌声終り年始

鳥海 敏雄

残飯に紅葉かけたし坊の庭

湯川 勉

峯へ百里の思ひの新た初河夫利

山本つぼみ

その他、当時の奉行所跡、為朝神社を回った。今回の散歩の印象として、幕末の頃の事件が興味を中心となったが、

それぞれの建物は300年余の歴史があり、平穏な時期に建てられていることもあり彫刻を始め装飾、屋根にいたるまで手を尽くして、講

師の説明と併せて観察した思いがけず楽しいコースであった。(中澤祥浩)

合同吟行

唸りつつ指折りつつ一句

震生湖・秦翁寺・鴨立庵



小雨がぱらつく11月29日、3句会からなる秋の合同句会に参加しました。

コースは秦野の震生湖・中井の秦翁寺・大磯の鴨立庵で先生も含めて総勢20人。我がこだま句会からは3人の参加でした。

震生湖は字のとおり地震でできた湖で寺田虎彦が「山裂けてなりたる湖や水馬」と詠んでいます。いつ



鴨立庵 (大磯)

の間に雨もあがり、釣り人が静かに糸をたれている湖面に、ただただ紅葉が降る景色は時間が止まったかのようにでした。

次は秦王寺には、中井町の農民俳人小林一眺さんの辞世の句碑「旅はいま落ち葉の音を聞きながら」(松尾佐知子)

今回は2回目の吟行でしたが、自分が表現できなかったことを的確に詠んだ句に多く出会い、勉強不足を痛感したとても有意義な1日でした。

予告!! 予告!! 予告!!

- 歴史教室 (散策)
  - テーマ 城下町「古河(こが)」散策
  - とき 3月9日(火)
  - 集合 JR「横浜駅」8時頃の新宿ラインで古河まで直行
  - 参加費 2500円(昼食・入館料・資料冊子等)
  - 申込先 電話・FAX045(361)0112(佐藤喜治)
- 歴史教室 (講義)
  - テーマ 常磐御前・義経ゆかりの京をみる
  - とき 6月14日(月)13時30分~15時30分
  - ところ こだま会事務所(予定)
  - 講師 中村猪一郎会員 参加費 無料
  - 申込先 電話・FAX045(361)0112(佐藤喜治)
- 俳句教室(先生と曜日変更・詳細は6面参照)
  - 月例会(第2木曜日午後1時~4時)、こだま会事務所で開催。春と秋の吟行(旅先での句会)もあります。初めての方も大歓迎。楽しい句会です。
  - 指導 太田土男先生(俳句協会幹事)
  - 会費 500円
  - とき 第2木曜日13時~16時(1月14日・2月11日・3月11日・4月8日)
  - 場所 こだま会事務所
  - 申込先・問合せ先 電話0463-81-4493(井村友彦)
- 囲碁同好会(月例会:第1日曜日)
  - 月例会に気軽にご参加を。
  - とき 毎月第1日曜日11時~(2月7日・3月7日・4月4日)
  - ところ 囲碁サロン「有心」(横浜駅西口太陽ビル6階)
  - 会費 700円
  - 申込先 電話045(782)7665(青沼慶祐)
- 食文化を楽しむ会(薬膳料理)
  - \*7月を予定。詳細は6月号を。



千曲川沿いの旧国道117号線からみた野沢温泉村

長野県の飯山に来て3年。と言ってもずっと飯山で暮らしているわけではなく、静岡と徳島に実家があり、ユリの関係で北海道から沖縄まで出かけるので住所不定。「今、どちらに居ますか」と聞かれるのが電話での会話の始まりになります。

「60代は若者だあー」

長野県でも北東部のはずれ、新潟県境に近い所で、野沢温泉へは車で20分。千曲川に近く、ジブリのアニメ『となりのトトロ』の背景画と同じ日本の田舎の原風景そのままの



「西大滝」という集落にいます。見かけるのはほとんどがお祖母さんで、「60代は若者だ

あー」と私の事も激励してくれます。

\* \* \*

昭和44年に神奈川県職員の職となりましたが、行政職とはいえ大半がフラワーセンター大船植物園での勤務。自分の趣味が仕事になり、フラワーセンターの官舎に住み、人の金

(公金)で自分の好きな事がや

れるという、いたって恵まれた

## 飯・山・だ・よ・り ユリに魅せられて

大石勝彦さん



境遇でしたが、それだけに仕事に終わりがなく、やり残した課題を今は趣味で追求しているところなんです。

品格ある美しいユリを

ユリ球根は25年くらい前から大量にオランダから輸入されるようになりまし。品種改良の歴史は約150年。シーボルトが1829年に持ち帰ったアカカノコユリが、欧米人を魅了

したのがその始まりです。江戸末期、横浜が開港された直後から、ヤマユリの輸出が始まり、ササユリ・オニユリ・スカシユリ・カノコユリ・テッポウユリ・オトメユリ・ウケユリ等、日本に自生していた美しい種類が、戦前まで輸出農産物の花形として世界中に輸出されました。

これらの球根が育種の材料、遺伝資源となり、品種改良されてアジアティックハイブリッドやオリエンタルハイブリッドがつくられました。

1980年頃からオランダの業者によって大量生産さ

れ、輸出されるようになったのです。日本原産のユリが品種改良に利用されませんが、欧米人の好み

で、大きくて派手なものが追求されたため、日本のユリとは似ても似つかぬ花型となり、匂いがきつく身近には飾れない花になってしまいました。ササユリに代表される色の淡い<sup>たお</sup>なやかで品格のある香りの良い日本人の美意識に合ったユリを作る、見飽きない美しいユリを作るといふ課題に残る人生を使うことにしました。

荒廃地を開拓し

種を蒔いて花が咲くまで5年から

8年、交配してから選抜できるワンサイクルに約10年かかります。連作を嫌い、寒さには強いが暑さに弱く、土壌の水分量や日当たり具合によっては、葉が枯れ球根が腐ってしまう病気がある、なかなかやっかいな植物です。現在は海拔3百<sup>メートル</sup>、5百<sup>メートル</sup>、9百<sup>メートル</sup>の3ヶ所で栽培しています。5百<sup>メートル</sup>の畑を主力に考えています(75アール≒2250坪)。熊やカモシカが行き来する畑です。

### 5つの課題に挑戦

目標は、①原種のユリを、施設を使わず農薬や肥料を施用しないで、



食用ユリと交配種として検討している

オギと共生させて、なるべくたくさん<sup>さん</sup>の種類の<sup>を</sup>作る。②日本人の美意識に合った香りの良

い美しい品種を作る。③食用に向く品種を作る。④原種のユリ球根を生産し、輸出する(絶滅危惧種を保護・保存する)。⑤観光資源として利用



し、品種改良されたものを切花や球根で地域の特産物にする。残る人生で間に合いそうもない大きな課題に取り組んでいます。

国会図書館等で資料調査

BOOK

『神々の乱心』

松本清張著

文庫上・下  
2001年刊

松本清張生誕百年の記念行事が昨年、盛大に行われました。これに因み、清張未完の推理小説を読んでみませんか。

清張は著作『昭和史発掘』で、丹念な取材と丁寧な調査で、戦前の資料を沢山収集していた。その中で、作品化したテーマが数多く生まれ、その一つ『新興宗教と宮中』を題材にしたものです。



昭和8年、埼玉県梅若町に、よく占いの当たる「月辰会研究所」が出来ていた。埼玉県特高係長が視察の途中、研究所に興味を持つ。その帰り、梅若駅(東武)で上品な若い女性を、ちょっとしたきっかけで尋問した。その女性は、宮中高級女官の部屋と呼ばれる召使いで、女官の使いで梅若に来ていた。女性は、その数日後に自宅へ帰り自殺する。

冬から春の間には、国会図書館と東大の博物館に通いました。伊藤圭介の残したユリの資料の調査、フランスから横須賀に来ていたサバチユが持ち帰っていた馬場大助のユリ図

その自殺を巡って特高や、素人探偵を自称する若い華族が究明に走る。

「月辰会研究所」は隠れミノ。新興の宗教団体が、宮中の女官や元憲兵、陸海軍将校を信徒にしたのは？

「月と北斗七星の霊紋」の意味は？

物語は、大正時代の満州へさかのぼり、「大連阿片事件」、満州浪人、スパイ等々からみあい、その土壌から新興宗教の芽が生まれる。

この著作は、平成2年3月から『週刊文春』に連載が始まり、清張、病に倒れ不帰の人となった平成4年、105回で中断。物語の終盤で未完に終わった大作。息もつかせず、ぐいぐい引き込まれます。(木村武子)

戦争と映画

『土と兵隊』

監督：田坂具隆

1939年  
日本

映画随想 2  
火野葦平は『糞尿譚』で芥川賞を受賞した。当時火野は一兵卒として中国の前線にあり、現地で賞を受けた。軍は火野を報道班に転属させ、作家活動を許可した。やがて従

譜(行方不明になっていたもの)の原本の確認ができました。大発見なので、整理をして発表しておかなくてはなりません。

現職の時から自分の時間と金をつ

軍記録『麦と兵隊』を発表、ベストセラーとなった。続いて世に問うたのが『土と兵隊』。この小説は、火野が実戦部隊の一分隊長として、10数名の兵士を指揮して実戦に参加した経験に基づいたものである。

映画化にあたり監督の田坂具隆は前線に赴き、兵の実態を目にした。重い砲弾を背負って昼夜の別なく歩く兵士に心打たれた。そして戦争とは歩くことだ、一つの方向に黙々と歩くことだ、と感じ入ったという。

中国本土で3ヶ月余りかけて撮影された映画『土と兵隊』は、上映時間のほとんどが兵士達の歩く姿を執拗に描いている。葦の密生したなか、麦畑の傍、泥濘の道、クリークの沿道、夜雨のなか…。

昭和14年10月、東京の空に映画完成を知らせるアドバルーンがあがった。歌舞伎座でのロードショーに続き全国公開されたこの映画は、1ヶ月以上のロングランとなり、多くの国民の支持を得た。

さて、当時の映画評では「今事変を契機として生じた最も優れた映画

ぎ込んで仕事をしてみました。今は給料なしで同じようなことをやっています。貧乏暇なしの忙しい生活ですが知り合いからは「やる事があっていいね」と羨ましがられています。

である」とあるが、公開から70年を経た現時点での評価は厳しい。日中戦争は日本にとって弁明の余地の全くない侵略戦争であったことは明白な事実であるにもかかわらず、この映画は戦争批判をしていない、というのが識者の指摘である。

『土と兵隊』は軍部の全面的な協力を得て撮影された。膨大な人数の兵士がエキストラとしてフィルムに残されている。スクリーンに展開される兵士の行進は、圧倒的な迫力で観る者に迫る。しかし、その兵の大多数が再び祖国に帰らなかったことを思うと、まことに胸が痛む思いである。あたかも反戦映画を観た後のような感覚にとらわれるのは、70年という歳月の故であろうか。

戦争末期、田坂具隆は故郷の広島に入営し、被爆した。戦後永らく原爆症に苦しんだが復帰し『女中ッ子』『陽のあたる坂道』『五番町夕霧楼』『親鸞』『冷飯とおさんとちゃん』等の名作を残して、昭和49年に72歳で没した。(田中一男)

### 歴史教室・奈良・大和路1泊研修旅行

## 聖地・霊峰高野山と奈良、大和路をゆく

■第1日目■  
昨年の11月21日(土)から22日(日)、総勢8名は高野山と奈良大和路の3つの神社仏閣を巡り、紅葉のなかの歴史散策を楽しんだ。

新横浜より新幹線で名古屋に直行。バスで高野山へ。ガイドの案内で高野山奥の院へ。毎月21日は弘法大使様が全国行脚から高野山に帰られる日で、御廊下に鎮座している大師様に拝礼することができた。宿坊「天徳院」に泊まる。  
二膳で質素ながら美味の

精進料理をいただき、早めに床に着いた。しかし部屋近くの厨房にある残飯の多さに心が痛んだ。

■第2日目■  
前夜の早寝のせい、4時前に目覚める。顔はつるつるしている。前日の精進料理と聖地・高野山のやすらぎの効果か。それぞれ朝食前の勤業と散歩に。清々しい気分での朝食をいただいた後、高野山を下り奈良、大和路を一路、談山神社へ。正午、大和多武峰、談山神社着。大化の改新の発祥地。中大兄皇子(天智天皇)と中臣鎌足(藤原鎌足)が談合した地。重文の十三重塔が有名。本殿からの眺めは素晴らしかったが、紅葉

はいまいち。談山神社には、芭蕉の句碑がある。  
雲雀より空にやすらふ峠かな  
次に長谷寺。古今より女性に人気の「花の御寺」。かの清少納言など文人が多く詣でている。春は桜、牡丹。牡丹の寺として有名。夏は紫陽花。



高野山・宿坊「天徳院」にて (撮影・佐藤喜治)

秋は紅葉。冬は雪に映える寒牡丹。四季の花が寺を彩る。いつ来ても登廊には癒される。本殿から五重塔への眺めは、全山紅葉して素晴らしかった。本殿の十一面観世音菩薩は巨大で感動的。

大和路の最後は、室生寺。小雨降る中、金堂・本堂・五重塔・奥の院を巡る。各堂は木立に囲まれ、ひっそりと地味なたたずまいだ。五重塔は木立の中に燦然と輝き「女人高野」を象徴していた。金堂内の一本造りの各像は圧巻。奥の院は急な階段の連続で健脚向き。  
旅も無事終わり、午後8時過ぎ名古屋より帰路に着く。  
残飯に紅葉かけたし坊の夜  
扶助子(湯川 勉)



奥津弘久さんの作品

## 絵手紙



松尾佐知子さんの作品

### こだま句会

## 山本つぼみ先生から 太田土男先生へ バトンタッチ

「こだま句会」発足以来9年間、ご指導いただいた山本つぼみ先生(阿夫利嶺主宰)。昨年12月の句会を最後に、太田土男先生とバトンタッチされました。山本先生には、初心者をぐいぐい引っ張っていただき、その成果は『こだま句集』(2冊発行)として実りました。本当にありがとうございます。

今年からは太田土男先生のもとで励むこととなります。太田先生は1937年、川崎生まれ。農水省の研究機関に勤務され、58年に大野林火氏に師事。94年『百鳥』創刊と共に同人。「濱」賞、「百鳥」鳳声賞、第10回俳壇賞、等々を受賞。現在「百鳥」「草笛」「濱」同人。俳句協会幹事をされています。  
句会は毎月第2木曜日に変更になります。楽しい句会です。皆さんのご参加を期待しています。





品川正治さん

# 「9条」は人間の目で見ている たった一つの憲法です

「県職員九条の会」は12月5日、横浜市従会館で品川正治さん（経済同友会終身幹事・85歳）を迎え「平和講演会」を開催。参加者は59人。



「県職員九条の会」が平和講演会

品川さんは満州事変、日中戦争、太平洋戦争を経験。旧制高校の時に徴兵猶予制度がなくなり、「あと2年で兵隊に行く。それは死を意味する。死ぬまでにカントの『純粹理性批判』を原語で読みたい」と1年半かけて読み終えた10日後、召集令状が来て中国の河南省に送られました。

開けても暮れても戦闘状態。白兵戦で、面と向かった殺し合いを体験し、「体に5発弾を受け、今もその一部が右足に残っている」しかし、80歳になるまで実体験を語ることはありませんでした。

「ニューギニアやレイテ等では7割が餓死。サイパン、沖繩等では玉

砕しか考えられなかった」「こうした人たちの前で、私は中国で戦争したなんて、言えないと思っていた」そして、「あなただけどうして助かったのかと問われると、その先は話せなくなる」とも。

そんなトラウマを60数年も抱えて生きてきたある日、戦友の出身地で講演会に呼ばれました。高齢の人たちに向かい、「壇上からお詫びを申し上げ、手を付いて謝った。ところが、みなさん、いきなり号泣された。聴衆がもらい泣きしている」「それ以来、戦争の話ができるようになった」

終戦後は11月に武装解除、捕虜収容所から帰国。引揚船の停泊中に配られた「憲法草案」（新聞に掲載）を皆の前で読むように言われ、「9条まできた時、みんな泣いた。戦争放棄を謳い、軍隊を持たず国の交戦権

権から退場させた歴史的なもの。しかし国民は民主党の政策を全面的に

も認めない……。これなら戦友も浮かばれる」。これが品川さんと日本国憲法との最初の出会いでした。

戦後は、「為政者は戦争を出来る国にしようとしてきた。9条の旗はポロポロになったが、国民はこの旗を手放そうとしない」とし、「日本の9条は人間の目で見ているただ一つの憲法だ」。経済人として、リーマンショックや年越し派遣村にふれ、「戦争を人間の目で見ている日本が、どうして人間の目で経済を見ないのか」と強調しました。

今、オバマ政権誕生と日本の政権交代の中にあつて、「普天間基地はいらない、核の傘はいらないと発言し続けられ、日本も世界も変わる」「人任せにしないで、自分は何が出来るか考えよう」と呼びかけました。

（鳥海敏雄）

藤沢市民会館で11月12日、「第5回輝け高齢期かながわの集い」が開かれ、250余名が参加しました。

まず、「医療・介護・国保の改悪反対・安心の高齢期を」と題して篠崎次男さんが講演。「65歳以上の半分は身体に病的痛みや疲れを持ち、その半分は日常生活に支障をきたしている。高齢者の大半は、税と保険料と医療介護の負担に喘いでいるのが実情だ。1970年代に実現できた老



## 輝け高齢期かながわのつどい

## 高齢期運動の定番



基調報告で佐々木滋・県社保協事務局長は、「先の選挙は、自・公を政

は支持していない。後期高齢者医療法や障害者自立支援法を廃止し、生

活保護の母子加算を復活させよう。憲法擁護、『9条の会』活動、核兵器廃絶の運動に力を尽くそう」と提起しました。

4本の特別報告は湘南・藤沢周辺の市民運動が活発なことをうかがえる報告でした。コーラスや50人によるフラダンス等も披露され、大会アピール採択。連絡会会長の中里龍夫さんが閉会の挨拶。終了後、駅まで行進しました。

（鳥居伸太郎）

# 手づくりで楽しい文化祭

恒例の「神奈川県自治労連退職者会第15回ふれあい手づくりが文化祭」が横浜市従会館で昨年10月31日(土)に開催されました。10月末とは思えぬような暖かな1日でした。

3階の会議室には市従会員の趣味のサークル活動(ちぎり絵・絵画・写真・各種手芸品・俳句・生け花・絵手紙等々)のすばらしい作品が展示されていました。

「こだま会」からも、数では劣りましたが、絵画・写真・各種手芸品・俳句・絵手紙等の作品が出品さ

食文化を楽しむ会  
「薬膳料理」



09年11月25日、横浜市健康福祉センターで、「食文化を楽しむ会」がありました。テーマは「風邪予防の薬膳料理」で参加者は8人。レシピの欲しい方は事務局へご一報を。

## 〈メニュー〉

- ①銀杏入り御飯
- ②黄耆・陳皮入り鶏肉と蓮根の炒め煮…オウギ・チンピは生薬。これで煮汁を作って置く。肉・蓮根・人参・長葱・生姜を食べ易く切り、順に炒め、煮付けとめんつゆを加え煮詰める。炒めた松の実を散らす。
- ③菊花と蕪の酢の物…酢で茹でた菊花、塩でしんなりさせた蕪、戻して茹でた白きくらげ。これを五味子酢の入った合わせ酢に漬ける。
- ④茸と山芋の汁…生椎茸・しめじ・まいたけに豚肉や山芋の食材。山芋と肉をまず炒め、用意した黄耆の煎じ汁と水・茸を加える。調味料で味を調べ、アクを取りながら煮込む。葱の小口切りを散らす。
- ⑤果物甘煮。

(木村武子)

## 風邪予防の食材には「蓮根」「山芋」など根菜を

参の食べ物や、会場で販売しているビールやおでんをつまみながら、和気あいあいと演芸を楽しみました。

(雨宮一雄)



れ、会場を賑やかに盛り上げていました。4階のホールでは演芸が開かれ、舞台の前にはテーブルが置かれ、持

三味線や踊り、民謡・演歌・居合・尺八演奏…、特に目を引いたのが、こだま会員の華やかなハワイアン風の調べによるフラダンスでした。カラ

オケで、皆さん慣れているせいか、堂々と歌い上手で友人はだしでした。また和服の着付けの発表もあり、6人の会員モデルさんが和服姿で出演されました。着付けの先生は85歳とのこと。まことに元気が良かったです。今回も手づくり文化祭は盛大に終わりました。実行委員

▼今号の「会員紹介」は、大石勝彦さん。定年後も、ユリの研究を続け、行方不明だった「ユリ図譜」の原本を発見。すごいことですね。会員の中には、多種多芸の方がたくさんおられます。元気で活躍されている方を、これからも紹介していきたいと思います。

▼今年(安永改定50年)。「普天間基地はいらない、核の傘はいらない」と言い続ければ、日本も世界も変わる」と言われる品川正治さん(県職員九条の会の講演会)の発言に納得です。新政権は、アメリカに堂々と正論を主張していつて欲しいものです。

▼「手づくり文化祭」では会員による華やかなフラダンスも登場し、盛り上げました。

▼健康第一。今年も大いに交流を深めていきましょう。風邪など引かれませんかように…。(と)

編集 後記